

木津川カントリー倶楽部 会則

第1章 総則

第1条 (名称)

本倶楽部は、木津川カントリー倶楽部（以下、「倶楽部」という。）と称する。

第2条 (目的)

倶楽部は、PGMプロパティーズ株式会社（以下、「会社」という。）が奈良県奈良市下狭川1824に所有するゴルフ場及びその付帯施設（以下、「施設」という。）を利用して会員の健康増進を図り、健全なゴルフの普及に努めるとともに、会員相互の親睦を深めることを目的とする。

第3条 (事務所)

倶楽部の事務所は施設内におく。

第2章 会員

第4条 (会員の種類)

1. 倶楽部の会員は次のとおりとする。

(1) 特別会員

倶楽部または会社斯界に功績のあった者のうち、理事会の推薦により会社が特別会員の資格を承認した個人とし、その資格は一身専属とする。

(2) 正会員

会社が定める手続により会社が正会員の資格を承認した個人または法人とする。

(3) 婦人会員

会社が定める手続により会社が婦人会員の資格を承認した個人とする。

(4) 週日会員

会社が定める手続により会社が週日会員の資格を承認した個人または法人とする。

2. 会員のうち、個人を個人会員、法人を法人会員という。

3. 法人会員は、法人に代わり会員資格を行使する個人（以下、「登録者」という。）を会社に登録しなければならない。

但し、登録者は会社が定める手続により会社が登録者の資格を承認した者とする。

第5条 (会員の権利)

1. 会員は、次に掲げる日（但し、会社が定める休業日を除く。）の営業時間内に、会社が定める条件で施設を優先的に利用することができる。

(1) 特別会員及び正会員：全日

(2) 婦人及び週日会員：月曜日から土曜日まで（但し、国民の祝日に関する法律で定める休日を除く。）

2. 会員は、会社が定める条件で倶楽部が開催する競技会その他の行事に参加することができる。

3. 会員は、会社が定める条件でビジターを同伴または紹介することができる。

4. 本条前各項で定める会員の権利は、予約状況など合理的な事由により、一定の制限が加えられる場合があることを予め了承する。

5. 会員は、本会則の定めに基づき預託金の返還を請求することができる。

第6条 (会員の義務)

1. 会員は、会社が定める年会費その他諸料金を遅滞なく支払うものとする。但し、特別会員の年会費は不要とする。なお、会員は年会費の1か年分を対象年度の前年度末日までに支払うものとし、会員が対象年度の途中で会員資格を喪失しても、会社は年会費を返還しないものとする。

2. 会員は、施設を利用した場合、別途定めのない限り、会社が定める利用料金を利用当日に支払うものとする。

3. 会員は、住所、氏名、商号等の届出事項に変更があった場合、その旨を会社へ遅滞なく連絡し、会社が定める手続を行うものとする。

4. 会員は、会員資格を第三者に行使させてはならないものとする。

5. 会員は、本会則、その他倶楽部の諸規則を遵守するものとする。また、倶楽部の秩序を乱し、または倶楽部もしく

は会社の名誉を毀損する行為を行わないものとする。

6. 会員は、同伴または紹介したビジターの行為及び諸料金の支払等につき、連帯して会社に責任を負うものとする。
7. 会員は、会社が開催決定した公式競技会、プロ競技会等により施設を利用できない日が生じてもこれに従うものとする。
8. 会員は、会社及び理事会の決定事項に従うものとする。

第7条 (暴力団等追放)

1. 会社は、暴力団、その関係者、または反社会的団体の構成員等の倶楽部への入会及び施設の利用を認めないものとする。
2. 会員は、暴力団、その関係者、または反社会的団体の構成員等を同伴し、または紹介してはならないものとする。

第8条 (会員資格の停止、除名)

会員が次の各号の一つに該当するときは、会社は理事会の同意を得て、会員資格の一時停止または除名処分を行うことができる。

- (1) 本会または倶楽部の諸規則に違反したとき
- (2) 倶楽部または会社の名誉を傷つけ、または秩序を乱したとき
- (3) 年会費その他諸料金の支払を3か月以上滞納し、再請求を行っても完納しないとき
- (4) その他会員として不適格な事由があるとき

第9条 (会員資格の喪失)

会員が次の各号の一つに該当するときは、その資格を失うものとする。

- (1) 退会
- (2) 除名
- (3) 特別会員であって、その推挙の理由が消滅したとき
- (4) 法人会員であって、その法人が解散したとき（合併等の会社組織再編行為による解散を除く。）
- (5) 死亡
- (6) 会員がその権利を第三者に譲渡し、名義変更手続が完了したとき

第10条 (会員契約の解除)

1. 会員契約上の地位を持つ者が次の各号の一つに該当するときは、会員契約は解除されるものとする。
 - (1) 前条第1号ないし第3号の事由が発生したとき
 - (2) 法人会員について、清算手続が終了したとき
 - (3) 個人会員について、相続開始後2年が経過しても第17条第2項及び第3項に定める手続が完了しないとき、または同条第5項に定める譲渡手続が完了しないとき
2. 会員契約上の地位を持つ者が次の各号の一つに該当するときは、会社は会員契約を解除することができるものとする。
 - (1) 会社更生または民事再生等の法的再建手続が開始されたとき
 - (2) 破産または特別清算等の法的清算手続が開始されたとき

第11条 (休会)

1. 個人会員が次の各号の一つに該当するときは、会社が定める手続に従って会社の承認を得て、一定期間休会することができる。但し、法人会員及び年会費の未払がある個人会員は休会できないものとする。
 - (1) 傷病加療のため施設を利用できないとき
 - (2) 日本国外へ転勤、転居したとき
2. 前項による休会期間は申請した年度の翌年度末日までとし、引き続き休会を希望する個人会員は、前項の手続を改めて行わなければならないものとする。
3. 休会期間中の年会費は申請した年度の翌年度に限り免除される。
4. 第1項の休会事由が解消した場合、休会者は遅滞なく会社が定める休会解除の手続を行うものとする。また、前項の規定にかかわらず、当該休会者は、休会解除の翌月から当該年度末までの期間に相当する年会費を一括で支払うものとする。

第3章 入会及び退会等

第12条 (入会)

1. 倶楽部に入会しようとする者は、会社が定める手続に従って会社の承認を得なければならない。
2. 前項の承認を得た者は、会社が定める入会金及び預託金または名義変更料を支払うものとする。会社は、これらの入会手続の完了後に会員登録を行う。
3. 入会金及び名義変更料は、理由の如何を問わず、返還しないものとする。

第13条（預託金）

1. 預託金は、無利息無配当にて全額会社に預託されるものとし、次項に定める据置期間経過後に、会員が会員契約の解除を条件に返還請求した場合に限り返還されるものとする。
2. 預託金の据置期間は、2004年1月31日以前から在籍する会員については同日から、2004年2月1日以降に新たに会員資格を取得した会員については当該会員資格の取得日から、それぞれ10年間とする。
3. 会社は、会社の経営を円滑に遂行するために必要があるとき、倶楽部の運営上会員の利益を著しく阻害するおそれがあるとき、または、天災地変、社会情勢の著しい変化、その他やむを得ない事態が発生したときは、理事会の同意を得て、前項の据置期間を一定の範囲内で延長することができる。
4. 会員は、会社の書面による承諾を得ることなく、預託金の返還請求権を譲渡、質入れ、その他処分することができない。これは会員資格喪失後も同様とする。
5. 会員契約が解除された場合、会社は、預託金と年会費その他諸料金の未払い等会員の会社に対する債務を対当額にて相殺できるものとする。

第14条（退会）

会員は、前条に定める据置期間経過後、倶楽部を退会することができる。その場合、会社が定める手続に従って会社の承認を得なければならない。

第15条（登録者の変更）

1. 法人会員は、会社が定める手続に従って会社の承認を得て、登録者を変更することができる。
2. 前項の承認を得た法人会員は、会社が定める登録者変更料を支払うものとする。会社は、これらの登録者変更手続の完了後に登録者の変更登録を行う。

第4章 会員の権利の承継

第16条（権利の譲渡）

1. 会員は、会社が定める手続に従って当該会員の権利を第三者に譲渡することができる。
2. 権利を譲り受けようとする者は、会社が定める手続に従って会社の承認を得なければならない。
3. 前項の承認を得た譲受人は、会社が定める名義変更料を支払うものとする。会社は、これらの名義変更手続の完了後に会員登録を変更する。
4. 前項の手続を完了した譲受人は、本会則に定める譲渡人の権利義務のすべてを承継する。
5. 会社は、権利の譲渡による名義変更手続を一定期間停止することができる。

第17条（権利の相続）

1. 個人会員について相続が開始された場合、相続人は、被相続人の会員契約上の地位を承継することができる。
2. 相続人が会員資格の取得を希望する場合、会社が定める手続に従って会社の承認を得なければならない。但し、相続人が複数の場合は、会社の承認を得るにあたり、会員契約上の地位を相続人の一人に集約しなければならない。
3. 前項の承認を得た相続人は、会社が定める名義変更料を支払うものとする。会社は、これらの名義変更手続の完了後に会員登録を変更する。
4. 前項の手続を完了した相続人は、本会則に定める被相続人の権利義務のすべてを承継する。
5. 相続人が会員資格の取得を希望しない場合、または会社の承認が得られない場合、相続人は前条の規定を準用し、会員契約上の地位を第三者に譲渡することができる。

第18条（その他の権利承継）

法人会員について、合併または会社分割等の会社組織再編行為により別法人に権利義務を包括承継がなされた場合、会社が定める手続により当該別法人に対し会員契約上の地位を承継させることができる。

第5章 役員及び理事会

第19条（役員）

1. 倶楽部に次の役員をおく。

理事長	1名
キャプテン	1名
理事	若干名
2. 理事長が必要と認めた場合、前項以外の役員をおくことができる。

第20条（役員を選任）

1. 理事長は、会社が選任し委嘱する。
2. 理事は、会社の推薦する者及び会員の中より理事長が選任し委嘱する。
3. キャプテンは、前項で選任されえた理事の中より理事長が選任し委嘱する。

第21条（役員の任期）

1. 役員はすべて名誉職とし、その任期は委嘱後2回目に行う定時理事会終結の時までとする。但し、再任を妨げない。
2. 補欠または増員により選任された役員の任期は、他の役員の任期の残存期間と同一とする。

第22条（理事長）

1. 理事長は、倶楽部を代表して会務を統括する。
2. 理事長は、毎年1回、定時理事会を、また必要に応じて臨時理事会を招集し、理事会の議長となる。
3. 理事長に事故ある場合は、キャプテンまたはあらかじめ理事会で定めた順位に従って他の理事が理事長の職務を代行する。

第23条（理事会）

1. 理事会は理事長及び理事をもって構成し、理事長を含む理事の過半数の出席（委任状を含む。）をもって成立する。
2. 理事会の決議は、理事長を含む出席理事（委任状を含む。）の過半数で決する。なお、可否同数の場合は議長がこれを決する。
3. 理事長が理事会開催の必要がないと認めた場合は、書面により決議することができる。
4. 理事会は、本会則に定める事項及び会社から諮問を受けた次の事項につき決議するものとする。
 - (1) 倶楽部の運営に関する基本事項
 - (2) 本会則及び倶楽部の運営に必要な諸規則の制定及び改廃に関する事項
 - (3) 各種委員会に関する事項
 - (4) その他倶楽部の運営に必要と認められる事項

第24条（委員会）

1. 理事会は、必要に応じて倶楽部に各種分科委員会をおくことができる。
 - ・フェローシップ・エチケット委員会
 - ・グリーン委員会
 - ・コンペティション・ルール委員会
 - ・ハンディキャップ委員会
 - ・レディス委員会
2. 前項に基づき設置された委員会の委員長、副委員長及び委員は、理事または会員の中から理事会が選任し、理事長が委嘱する。委員長、副委員長及び委員の任期は、その就任の日から理事の任期の終期と同一とする。
3. 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、委員会の議長となる。
4. 委員会は、印の過半数の出席をもって成立し、その決議は出席委員の過半数で決する。なお、可否同数の場合は議長がこれを決する。

第6章 個人情報の取扱い

第25条（個人情報の取扱い）

1. 会社は、公表している「個人情報保護方針」及び「個人情報の取扱いについて」に基づいて、会員の個人情報を取扱うものとする。
2. 前項の規定にかかわらず、会員が会員契約代行者（以下、「代行者」という。）を介して保有会員権の第三者への譲渡を希望する場合において、会社が代行者から当該会員の個人情報の照会を受けたときは、会社は当該会員の同意を得ることなく当該会員の個人情報を代行者に開示することができるものとする。

第7章 附 則

第26条 本会則において会社が定める手続は、会社が別途制定する各種要項に規定する手続によるものとする。

第27条 年会費の対象期間は、毎年1月1日から12月31日までとする。

第28条 本会則は2011年11月23日から改定施行する。

以 上